

平成25年度第4回川崎市青少年科学館協議会摘録

日 時 平成26年2月19日(水) 午後2~4時

会 場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館)自然学習棟2階 学習室1

出席者(敬称略)

- (1) 委員 (教育職員) 新井正明、(社会教育) 中山純史、(公募市民) 渡邊敬三、
(学識経験者) 山上明、平田大二、洞口俊博、木場英久、(家庭教育) 有北郁子
- (2) 事務局 山田館長、國司担当課長、花道、大泉、黒瀬、小鍛冶(生田緑地運営共同事業体)
- (3) 傍聴者 0人

凡例 発言者について

□□: 委員、○○: 事務局員(青少年科学館職員)

1 開会

事務局より、開会告知、傍聴者受入(定員10人)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知

2 館長挨拶

3 東芝未来科学館について

副会長 当館は本年1月31日にオープンし、年間30万人の来館を目標としている。入場料は無料である。元の東芝科学館は全国でも3番目の歴史があり、民間の科学館の草分け的存在である。当館は、川崎駅から至近にある東芝の本社ビル(スマートコミュニティセンター)の2階にあるが、これまでの来館者数については、大雪の影響もあり、1日平均600~700人に止まっている。一方、2月11日(火・祝)には約2,000人もの来館があった。

展示物については、超伝導や静電気に関する展示を除き、科学関係の展示物を一新した。施設の中央部分には、アミューズメント展示を充実させているので、子どもに楽しんでもらえるものと思う。

この他、エレクトロニクスの最新技術を体験できるコーナーも設置している。「体のことがよくわかる」というゲーム展示については、特許申請中である。

有北 対象年齢は。

副会長 小学校5年生あたりをターゲットとしているが、実際に利用が多いのは小学校3年生前後の子どものようである。

渡邊 団体利用の比率はどうか。

副会長 東芝科学館においては7割を占めていたが、現在は駅前の立地でファミリー利用が多いため、4割以下になるものと見込んでいる。

渡邊 フロア面積はどれくらいか。

副会長 2,850㎡。展示面積は2,100㎡である。

以下、山上会長が議事進行

4 議事 1 平成 24 年度事業評価について

会長の説明依頼に基づき、これまでの評価作業及び今後の作業について、管理担当から説明があった。

黒瀬 本日配布した案について次のとおり補足する。

- ①第 2 回協議会后に、事務局が文言修正し委員の皆様方に確認いただいた案と同一内容である。
- ②会長からご提案いただいた「自然展示」及び「天文分野に関する調査研究」の評価変更については、変更を取りやめることとした。
- ③第 1 回協議会におけるご意見に従い、簡単なまとめ文を作成した。館 HP における公開の際には、各評価データの前に掲載する予定である。

会長 公開の際には、本日の案から委員名及び各委員評価を削除することとなるが、公開前に、削除後のデータを確認したい。

黒瀬 委員の皆様には、HP のイメージ及び修正データを事前にメール送信する。

有北 HP から、評価データはダウンロードできるのか。

会長 できる。

洞口 形式は PDF か。

黒瀬 その予定である。

5 議事 2 平成 26 年度事業計画について

会長の説明依頼に基づき、館の各担当から資料 2 により説明

会長から質問・意見等の聴取

渡邊 「大人の植物観察会」の他に新規事業はあるか。

國司 「大人のためのプラネタリウム番組制作教室」も新規事業である。

(事務局補足：会議後半において、花道から「博物館ボランティア養成講座」も新規事業である旨追加報告があった)

渡邊 全体的に予算減となっているが、市の予算の関係か。

黒瀬 市の財政状況が厳しいことに加え、館の収入を予算に充てている事業については、プラネタリウム観覧料をはじめとする館の収入がリニューアル開館直後と比べ減少したことも影響している。

渡邊 一方で学芸系の人的予算は増えているものと考えてよいのか。

黒瀬 学芸員の給与については館の個別予算ではないが、そのように捉えてよいと思う。

洞口 アストロカーの出動頻度は。

國司 月 3 回程度の出動を前提に活動を開始したが、今年度は全 26 回程度となりそうである。来年度もほぼ同数を予定している。

平田 アストロカーはどのようなところに出動しているのか。

國司 会場は学校がほとんどである。一方、依頼者は学校に限らず、地域教育会議、子ども会からの依頼もある。

平田 アストロカーの活動は、館で行っている事業に比してどのような位置づけになっているのか。

- 國司 アストロカーの活動は、なかなか来館できない人々に向けたアウトリーチ活動である。
- 木場 大人の植物観察会は、外部のニーズから行うこととしたのか。
- 花道 アンケートなど外部からの希望もあるが、初心者や常連の参加者が混在する生田緑地観察会を実施するなかで、植物について、初心者を対象に初歩から丁寧に説明する事業の必要性を感じていた。そこで、初心者対象に特化した本事業を試験的に始めることとした。
- 木場 勤労者も参加できるよう週末に実施するのか。
- 花道 日曜日を中心に、初夏から夏にかけて実施したいと考えている。
- 会長 ホトケドジョウ生息環境整備事業の予算内訳及び成果について説明してほしい。
- 花道 本事業は絶滅が危惧しているホトケドジョウの種の保護を目的に、その人工飼育及び増殖を行うものであり、神奈川県水産技術センター内水面試験場に委託して実施している。予算は人件費、光熱費、資料費で構成されている。
- 会長 ホトケドジョウの増殖成果等については、何らかの形で報告されているのか。
- 花道 学校に増殖した個体を送り、飼育をお願いしていることを年報に記している。
(事務局補足：受託者からの事業報告については、年度末に個体数等に関する報告書が提出されている)
- 会長 自然分野の事業として「博物館ボランティア養成講座」があるが、天文分野、科学分野においてボランティア養成事業はないのか。
- 花道 名称は異なるが、「天文サポーター養成講座」、「科学サポーター研修会」がこれに当たる。
- 会長 資料2の「学校連携」について、説明がなかったのでお願いしたい。
(担当職員から説明あり)
- 平田 教育普及事業について職員数の割に実施数が多く感じるが、対応できるのか。また調査研究事業、収集保存事業について、来年度どのように進めていくのか。
- 國司 天文分野では、調査研究事業として、太陽表面及び太陽系天体の観測を行っていく。また、収集保存事業として学校教材に使用できるような天文写真の撮影・収集を継続していく。
- 花道 自然分野では、多摩川流域に係るデータ収集における市の他部署での未着手部分について、調査及びデータ収集に取り組んでいく。その他昆虫、植物の分布調査等を継続していく。
- 有北 平成24年度事業評価は平成26年度事業計画に反映されるのか。或いは27年度以降に活かされることとなるのか。
- 館長 平成26年度の予算要求や事業計画に反映させているつもりではあるが、協議会委員の皆様からも適宜ご意見をいただきたい
- 会長 今後の評価作業を円滑に行うためにも、資料2の事業計画について、教育普及事業以外の各事業についても、具体的な取組を明示したつくりで修正してほしい。

6 議事3 第3回科学館協議会（事業視察）について

- 会長 アストロテラス公開、自然ワークショップ、プラネタリウム特別投影の視察をした。前年度視察できなかった天文分野を中心に選出した。特別投影は生解説がよかった。アストロテラス公開は、市民が望遠鏡に触れるよい機会になっていると感じた。自然ワークショップは出入自由だが、実施者の苦労を考えると途中から入場中止としてもよいのではと感じた。
- 渡邊 ふしぎ実験室、アストロテラス公開を視察した。ふしぎ実験室については、館が果たす学校教育支援の役割の大きさを重視して選出した。事業終了後の懇談会において、受託者から、

参加者アンケートの収集結果について館から要求がないため提出していないとの話を聞いた。忙しいこととは思うが、実施状況の積極的把握に努めてほしい。また、実施に当たり、受託者への丸投げにならないよう、事業のガイドライン作成に取り組んでほしい。

平田 プラネタリウム学習投影、地層観察、収蔵庫内を視察した。プラネタリウム学習投影については、参加校からの星空投影を盛り込むなど参加者が星空を身近に感じやすい配慮をしながら、わかりやすい解説を行っていた。地層観察については、学校での事前学習後、現地で確認する形をとっており、参加者が目的意識をもって参加できるよい実施方法であると感じた。収蔵庫視察については、標本の今後の整理継続が重要であると感じた。標本は収集だけでは意味がなく、整理・登録した後の活用が重要であることに留意してほしい。その他、博物館間で地域ごとに役割分担した標本整備の推進や、館 HP への掲載など IT 技術を活用した所蔵標本の付加価値向上に向けた取組などが重要と思うので、留意の上取組を進めてほしい。

木場 自然ワークショップとアストロテラス公開を視察した。アストロテラスにおいては、大学生が解説補助を行っており、学生本人にとっても勉強になると感じた。当該学生については館が任用したアルバイトとのことだが、館と大学の協定締結等により、学生が館活動に携われる環境整備ができるとよいと感じた。自然ワークショップについては、木の実などを利用した気軽に参加できる工作を行っており、自然に親しむきっかけとしてよい事業と感じたが、これらの参加者を次のステップに誘導するような仕掛けを工夫してみてもどうか。

新井 視察は参加できなかったが、プラネタリウム学習投影など中学校教育活動の中で館を利用している。中学校理科研究会においても、年度当初の研究会会場として館を利用している。この場で各教員に館の取組・展示等に触れさせ、今後の教育計画に活かしてもらい意味合いも持たせている。その他連合文化祭の理科の発表会の会場の1つとしても館を利用している。プラネタリウムの学習投影については、各校の校庭から星空投影が開始されることは印象的と感じている。

有北 来年度以降の協議会においても視察を行う場合には、日程調整をこれまでより早く行うようにしてほしい。

館長 了解した。また、視察時における委員の皆様のご意見等についても、速やかに館職員間で共有できるようにしていきたい。

7 その他

(1) 次回協議会について

第1回協議会については6月中に実施予定である。事業計画については、今回の協議会におけるご指摘を活かしながら修正したい。また、25年度事業評価作業も開始したい。

(2) その他

8 閉会

会長より閉会告知